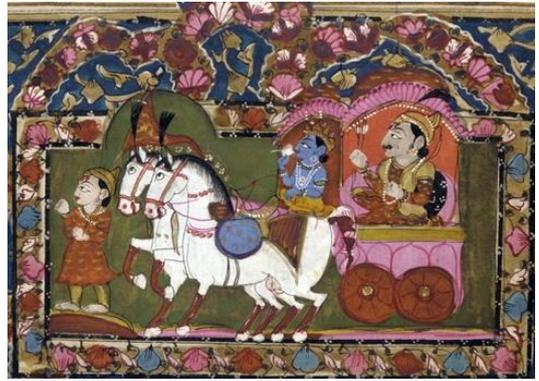


2024 年 7 月 20 日
日本近代文学館+ZOOM
研究発表 岡本真弘人 会員



『源氏物語』を俯瞰する
世界の中でのその周辺



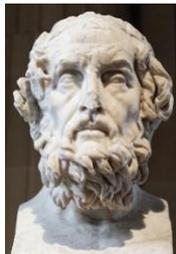
『ラーマヤナ』『マハーバーラタ』 作者は不明
インド二大叙事詩 (3 世紀頃)

前者は「ラーマ王行状記」、後者は古代インドの英雄
バーラタ王の活躍を描いている。ともに世界最長の英
雄叙事詩で、ホメロスと比較される。さらに類似点も
あるので、両者には common source があるのでは、
という見方もある。

バーラタ王の国が「バーラト」で、ちなみに、近い
将来インドは国名をこの Bharat に変更する模様。現
在のモディ首相は「インド・第一主義」の考え方であ
るから、植民地時代の名称とは決別したいらしい。

Ilias, Odysseia Homeros ギリシャの詩人 (紀
元前 8 世紀頃)

Ilias は、トロイの王子パリスがスパ
ルタの王妃ヘレナを誘拐したことを原
因とするトロイ戦争を描いている。ギ
リシャ側の勇士アキレウスがトロイの
王子パリスに唯一の弱点である踵を射
られて落命する場面も。戦いは 10 年経過後、木馬作
戦でようやくギリシャが勝利する。



Odysseia はそのトロイ攻略後の帰国譚を描いてい
る。ともに英雄叙事詩。

『イソップ物語』 *Aesop's Fables*

ギリシャの寓話作家、奴隷？

(紀元前 6 世紀頃)

The Ant and the Grasshopper,
To bell the cat, Sour Grapes 等



「アリとキリギリス」の「キリギリス」はもともと
は「セミ」である、とされている。アルプス北側の寒
冷地では「蟬」が生存せず、そのため、「キリギリス」
に変更されたい。「猫に鈴をつける」とは危険で無
謀なことをすること。さらに「酸っぱい葡萄」とは負
け惜しみのこと。

なお、室町時代には宣教師により日本に入ってきて
おり、「伊曾保物語」の表記になっている。

『アラビアン・ナイト』(『千夜一夜物語』)

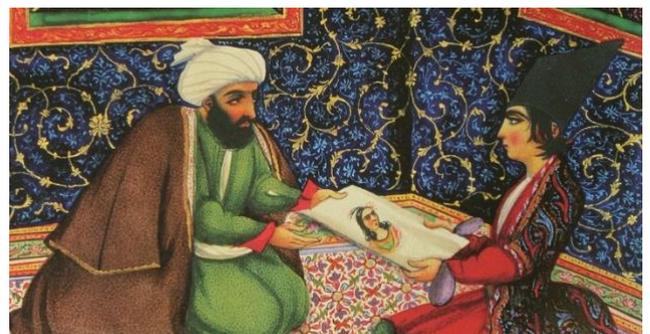
The Arabian Nights' Entertainments

Ali Baba, Aladdin, Sindbad the Sailor 等

(エジプト・ペルシャ民話集 8 世紀)

面白い話を次々と毎晩話してくれ、「この次はまた
明日ね」と言われて、妻に裏切られて女性不信に陥っ
ていたあまりに次々と新しき妻も殺していた王様も
話の続きを聴きたいがために、とうとうその語り手の
娘シエラザードを妃にした、という民間伝承。

リムスキー・コルサコフにも『千夜一夜物語』をも
とにした『シエラザード』なる交響組曲がある。



Beowulf イギリス 作者不明 (8世紀)

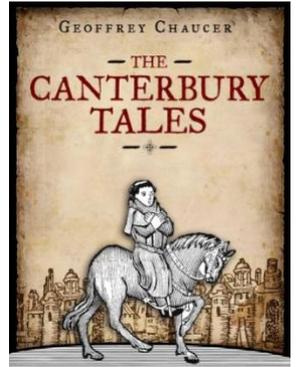
主人公ベオウルフが怪物グレンデルを退治する叙事詩。イギリス文学史の最初に定番として登場する。なお、「ノルマン人の征服」(Norman Conquest)により、イギリスの歴史は始まった、と言ってもいいのだが、それは11世紀のことで、古英語で書かれているこの作品はさらにその300年前である。



The Canterbury Tales Geoffrey Chaucer

“英詩の父” イギリス (1400)

カンタベリーは英国国教会の総本山となる以前よりローマとの関係で宗教上の重要な拠点であった。「お伊勢参り」よろしく、ここへ詣でることはよく行われていたらしい。そういう馬車の中で、相客が順番に話をする様子をえがいている詩。Bathから来たおかみさんの話が殊に有名。Chaucerの1400年の死により、この作品は未完。



①『三國志演義』 ②『水滸伝』 ③『西遊記』 中国 (13~14世紀頃)

①は 関羽・張飛・諸葛孔明らが活躍し、魏・呉・蜀の三国が天下を争う話。

なお、横浜・中華街の入り口に建っている「関帝廟」は関羽が神様になっていることを表わしている。②は梁山泊の盗賊団の豪傑たちを描き、③は三蔵法師よりも猿の孫悟空が大活躍する場面が主。



昔話 おとぎ話 童話 「桃太郎」「かちかち山」「浦島太郎」等 (室町時代)

これら昔話は、いつから民間に伝承されていたかは、はっきりしないが、室町時代に認識されたようである。日本人ならば、子供のうちに覚えてしまうお話の数々。「ドンブラコ」という擬音は誰しも「桃太郎」を連想する。



『神曲』 Dante Alighieri イタリア (13世紀) 死者の霊魂が地獄から煉獄へ、そして天国へと三界を遍歴する叙事詩

煉獄(inferno)では霊魂は炎によって浄化される。ハリウッド映画で超高層ビルが炎上するパニック映画があったが、タイトルは *The Towering Inferno* であった。



『ペロー童話集』 「シンデレラ」「青ひげ」等 (1697)

Charles Perrault

ペローがフランス各地の童話を蒐集。

『グリム童話』

「白雪姫」「赤頭巾」等のドイツ各地の民間伝承の民話・童話が 『子供と家庭の童話集』 *Kinder und Hausmärchen* として Jakob Grimm と Wilhelm Grimm 兄弟によってまとめられた (1800年代初頭)。なお、この兄弟は言語学者で、ゲルマン語に関わる「グリムの法則」は有名。言語学の学徒が必ずお目にかかる法則。

Hamlet, King Lear 等 William Shakespeare
英国 劇作家、詩人 (~1616)

イギリスの詩人の最高峰と言われている。役者によって舞台上で台詞として演ぜられることを前提とした作品。詩が芝居と融合している、と言える。計 37 に及ぶ戯曲の日本での最初の全訳は坪内逍遙によってなされている。彼は美濃の出身で、岐阜県・美濃加茂市にその偉業を顕彰する碑が建っている。



El Ingenioso Hidalgo Don Quijote de la Mancha
Miguel de Cervantes Saavedra スペイン (1605)

Hidalgo とは「郷士」のこと。La Mancha とはスペイン中央部で、アラビア語の「乾いた土地」に由来。

騎士道物語に没入し、自分も騎士であると思いこんでしまい、世の悪を正そうと行動を起こした人物が主人公。冷静な従僕との対比。ちなみに、作品中の主人公を「思索的・理性的ハムレット型」と「情熱的・衝動的ドン・キホーテ型」とに分類する人もいる。なお、このセルバンテスからヨーロッパでの小説のジャンルが始まっている、と考える学者が多い。



The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe
Daniel Defoe 英国 (1719)

通称『ロビンソン漂流記』。実は、スコットランドの Alexander Selkirk という船乗りが実際にチリ沖合の孤島に置き去りにされた事件があり、この実話を参考にしている。この作品がイギリスでの小説第一号とされている。サンチャゴ沖合のファン・フェルナンデス諸島には「ロビンソン・クルーソー島」と「アレクサンダー・セルカーク島」があり、ご愛敬というか、チ

リ政府の粋な計らいがうかがえる。もつとも、観光客を当て込んでのことのようだ。

作者デフォーは journalist でもあり、*A Tour through the whole island of Great Britain* 『大英周遊記』(塩谷清人・訳)なるイングランドの初期資本主義時代の農業・商業都市の実情を探訪した書も出しており、日本でも経済史の重要な参考書となっている。



以上を時間軸に俯瞰してみると、洋の東西を問わず、読み物として目にしうる文献は紀元前の大昔からまず**叙事詩・戯曲**が圧倒的で、空想的・怪奇的・英雄豪傑的・教訓的であり、それらはとりもおさず**【子供の】**、即ち子供が喜ぶものである。ようやくその後 17 世紀~18 世紀に至って、リアリズムが意識される、つまり現実にあるようなことが意識されるようになる。また心理描写も描かれており、散文の形式つまり**【大人の】**な小説の形態が現れている。この流れは、人が子供から大人への成長に伴い、読む物の対象が変わってくることとよく似ている。

そういうわけで、まだまだ空想的物語一辺倒である**子供の世界**の一千年前の昔にあって、紫式部が喜びや苦悩など人間の普遍的心理を描いた**大人の世界**の近代小説とも言うべき『源氏物語』を著わしていることは改めて大いに特筆されるべきことである。

また、表記も日本古来の「やまとことば」でなされていることにも注目したい。

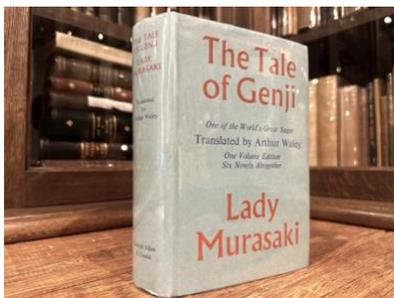


関連する翻訳家の存在

Arthur Waley 英国 (1889~1966)

***The Tale of Genji* The Arthur Waley Translation of
Lady Murasaki's Masterpiece (1925年)**

英国人ウエイリーは裕福なユダヤ系の家系の生まれ。職には就かず、日本語を独学。全くの趣味で『源氏物語』を英訳した。一千年も前の昔に、東の果ての国の、しかも女性が、近代的現代的とも言える、登場人物の恋愛感情・心理の襞を小説の形で描写していることにイギリスをはじめ西欧の人々が驚いたのはウエイリーの英訳のおかげである。これを基にして、さらに各国への翻訳がなされたからである。いくら紫式部が優れた作家であっても海外に向けて翻訳がなされ紹介されねば、知られずじまいであった。彼には、他に *The 'No' Plays of Japan* などもある。日本政府が顕彰したにもかかわらず、彼は結局来日はしなかった。



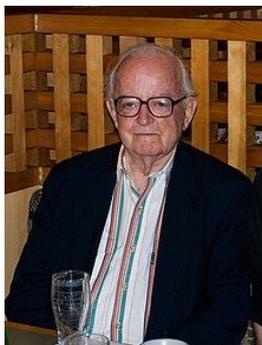
Edward Seidensticker 米国 (1921~2007)

『源氏物語』 『蜻蛉日記』 『蓼喰う蟲』 『雪国』
『伊豆の踊子』 等

Donald Keene 米国 (1922~2019)

『日本文学歴史』 『百代の过客』 『明治天皇』 等

両人ともにアメリカ海軍の太平洋戦争向け日本語集中養成所出身。川端康成はノーベル賞受賞は「彼の翻訳のおかげ」と、サイデンスティッカーに賞金の半分を渡している。サイデンスティッカーは例の激戦地として有名な硫黄島作戦にも参戦している。



一方、キーンは、ニューヨークの古書店でウエイリー訳 *The Tale of Genji* を偶然見つけ、すっかりウエイリーに私淑、ロンドンで彼に会っている。また太平洋戦争に従軍中、前線の絶望的な現場にあっても、日本軍の敗残兵が日記をつけていることに感銘を受けており、彼の「日記好きの日本人」という着眼点はここに始まっている。その他多くの日本文学界への貢献に対してキーンに文化勲章が授与されたことはまだ記憶に新しい。

完



We, Jokers

英語のジョークを楽しむ会

(Joke-Loving Club) 会報 第 100 号

発行日：2024年7月20日

発行人：世話人代表 豊田一男

編集人：小澤正樹

発行元：英語のジョークを楽しむ会

問い合わせ先: j2d4vhb7@na.commufa.jp